

## フロウエルマガジンコラム #14

2009年3月号

### 『あなたは、何ザイ？』

3月16日から週休3日制が始まりました。増えた休日をどのように過ごすか思案している人や既に新しい習い事や趣味を始めた人もいるかと思います。収入が減ってしまってあまりお金のかかることはできない事情もありますが、せつかく自由になる時間を無為に過ごしてしまうのはとても勿体ないことです。ぜひとも大事に使ってほしいと思います。

サラリーマン教師とかサラリーマン〇〇という言葉は、自分の職務に思い入れが少なく受動的に働く種類の人を指して言いますが、この表現は以前からおかしいと感じていました。サラリーマンやOLも生活のために仕事をして給料を得ている以上その職業のプロということですから。「しがないサラリーマン」みたいな表現もありますが、しがなくないサラリーマンも山ほどいます。しがないサラリーマンとしがなくないサラリーマンは一体どこが違うのでしょうか。フロウエルではしがなくないサラリーマンになることが可能でしょうか。

結論から言うとしがなくないサラリーマンになることは、フロウエルでも十分可能です。もっと言うと仮に今あなたがしがない側であったとしてもこれから変わることが可能です。ここで言う「しがなくないサラリーマン」とは、報酬が世間一般相場よりも高い従業員のことで、向上心とやりがいを持って仕事に取り組んでいる結果、成果がきちんと出て昇給スピードが速くなって10年もするとしがなくない状態に結果的になっている人です。何々マンというとジェンダー問題に抵触するかもしれないので、私はこれをビジネスアスリートと呼んでいます。ビジネスアスリートは『プロ論』で書きたいいわゆるプロフェッショナル人材のことです。プロと認められている人材は、例外なく自分の専門分野で高いスキルを持っていますが、一部を除いては高スキルが高収入に直結しています。人件費が高くなるとリストラの対象になりやすいですが、業務スキルで差別化できていれば雇用主もおいそれとは切ることができなくなります。他の人材と代替が難しいプロには、たとえコストが高くとも雇い続けたいというインセンティブが働きます。つまり高いスキル・専門性を持つということは、不況時の自己防衛にもつながるわけです。

プロフェッショナル≠しがなくないサラリーマンになるためには、どうしたらいいでしょうか。プロが最初から高いスキルを持っていたわけではありません。業務時間は残業の差はあれ、万人大差無しだとするとOJTでは差別化できるほどのスキルが身に付かないこととなります。すると結論は、仕事以外の時間の使い方に差がありそうだと判ります。以前新聞かなにかで読んだ話ですが、「こんな人材は不要」というテーマで各方面の社長にインタビューする中で特に印象に残った某大企業の社長の言葉がありました。「土曜日に休んで、日曜日も休む奴」。自助努力の無い人間を雇っていても仕方が無いという意味です。

下のマトリクスを見たことがある人はいますか？縦軸のマインドを「将来性」、横軸のスキルを「実績」で置き換えている別のものも見かけますが、意味するところは同じで双方高い値を持つ従業員は企業にとって財産であり、両方無い人を雇用することは罪であると言っています。

### ■ “ジンザイ”の4分類



「人材」は将来を見込めるが今はまだこれといった実績や差別化が出来ていない従業員で、財産となる可能性のある材料的存在。「人在」は過去の実績だけで食いつないでいる従業員を指し「人済」とも当て字される、そこにいるだけの社員で、将来性は見込めないし本人の向上心もあまりない類の人です。

会社から給料をもらう限りはプロであるべきですが、人罪にならずに人財を目指すには、土曜日休んで、日曜も休んでいてはダメです。この世の中で絶対的平等性がひとつあるとすれば、それは「時間」です。自由になる時間を作る努力をして、より有意に過ごした人ほど人財に近づくのだとすれば、週休3日制はある意味チャンスです。ぜひとも自己啓発に使ってください。今はお金をかけなくても勉強する手段が色々あります。横浜で働いていれば市民でなくとも市立図書館を利用できます。借りたい本をPCで検索して蔵書が豊富な中央図書館から自宅近隣の図書館へ本の移送手続きをすることも可能です。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kyoiku/library/>

また、デジタルではポッドキャストを利用する手もあります。広告料で運営されているから無料で色々な講座を受講できます。「長谷部瞳は日経1年生！」なんかお勧めです。

物でも人でも市場原理は厳格に働きます。希少性が高く、だれもが欲しがる材や能力には高いプライスがつきます。もし自分の給与に不満があるとするれば、冷静になって客観的に自己の現実を分析してみてください。そしてより良い待遇を得るための1年計画、5年計画、10年計画を段階的にそれぞれ立ててみてください。真面目に考えれば考えるほど時間が惜しくなってくるはずですが、あとは地道な努力を持続できるかどうかです。それができなければ、満足のいかない待遇で我慢するしかないのですが、現実にはどこの業界でもそういう人ほど不満を垂れ流しています。現在運用を延期していますが、公平性の高い評価システムも準備が来ています。企業でも個人でも投資の無いところに高いリターンは期待できないので、お互いがんばりましょう。

Heaven helps those who help themselves. 「天は自らを助くるものを助く」